

月	単元	学習内容	観点ごとの評価規準(達成してほしい姿)		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 5 6 7	基礎学習 1. 鉛筆グラ デーション 2. 色の基礎 3. モダンテ クニック 4. レタリン グ	無彩色・有彩色の性 質についての理解、 様々な技能の習得、 レタリングについ ての基本を学ぶ機 会を得る	素材・用具の特性を学びとり、効果 的に表現できる。 色々な見方、感じ方、発想の仕方、 知識を学ぶ。 表現意図に応じた材料や用具の使 い方を身に付ける。 デザインとしての文字の成り立ち を学び、美的表現としての 基礎技能を身につける	構図・全体のバランスを考え、工夫し、 構想を練る。 色彩・構図・全体のバランス等を考え て構想を練る。 美しく再現することへ美的な思考を 学び、作品としての表現へつなげる	継続的に楽しく取り組みかつ主体的に 努力する姿勢を身に付ける。 目標を持って楽しく、創造活動の喜び を感じながら制作に取り組む姿勢が持 てる。 再現性の強い課題であっても美しい表 現を目標として学習に取り組む
8	鑑賞教室	著名な作家の作品 について理解を深 める。	制作者の意図や時代背景を理解 し、作品についての知識を深める ことができる。	対象作品の制作意図を読み取り、自分 なりに表現を考えることができる。	世田谷区主催の鑑賞教室に参加するこ とで鑑賞する心を養い、それを制作活 動に反映しようとする姿勢が持てる。
			授業内観察、作品、テスト、自己評価。		

月	単元	学習内容	観点ごとの評価規準(達成してほしい姿)		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
9 10 11 12	絵文字の制 作	絵文字への理解と 発想について考え る機会を得る 構成や色彩につい ての学習 彩色技能の習得 用具の使い方と知 識、色の性質につい ての理解と彩色へ の実践	色々な見方、感じ方、発想の仕方、 知識を学ぶ。 表現意図に応じた材料や用具の 使い方を身に付ける 彩色の基礎を学ぶ。 表現の方法や技法等の違いを理 解、活用し、美しく制作すること ができる	文字と絵を組み合わせることで得られ る発想力と創造力。 色彩・構図・全体のバランス等を考えて 構想を練る。 構想に基づいた正しい色彩を表現する 着色材の特徴や美点を見出しその持ち 味を生かした表現を考える。	目標を持って楽しく、創造活動の喜び を感じながら制作に取り組む姿勢が持 てる。 継続的に楽しく取り組みかつ主体的に 努力する姿勢を身に付ける
			授業内観察、作品、テスト、自己評価。		

月	単元	学習内容	観点ごとの評価規準(達成してほしい姿)		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 2	石のレプリカの制作	石の形や模様を観察することで身近な物の面白さや美しさを知る機会を得る。 素材として身近な紙を用いた本物そっくりなレプリカ制作を行う。	身近な石のレプリカ制作を通して、自然の造形の面白さや美しさを学び取る。 表現意図に応じた材料や用具の使い方を身に付ける。	対象物を美しく再現することへ美的な思考を学び、作品としての表現へつなげる モダンテクニックの効果的な使い方を学び表現に繋げる。	目標を持って課題の制作に取り組む姿勢が持てる。 継続的に楽しく取り組みかつ主体的に努力する姿勢を身に付ける
3	鑑賞(校内展)	他者の作品について理解を深める。	制作者の意図や時代背景を理解し、作品についての知識を深めることができる。	対象作品の制作意図を読み取り、自分なりに表現、評価をすることができる。	鑑賞対象作品から、自身が感じ取った作者の美的要素をつかみ、それを主体的に自身の言葉で表す
			授業内観察、作品、テスト、自己評価。		

月	単元	学習内容	観点ごとの評価規準(達成してほしい姿)		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	石のレプリカの制作の続き	素材として身近な紙を用いた本物そっくりなレプリカ制作を行う	素材・用具の特性を学びとり、創造的に表現できる。 モダンテクニックの多様な技法を作品に展開している	対象物を美しく再現することへ美的な思考を学び、作品としての表現へつなげる	目標を持って課題の制作に取り組む姿勢が持てる。 継続的に楽しく取り組みかつ主体的に努力する姿勢を身に付ける
5 6 7 8	動きのある動物のモデリング	動きのある動物をモチーフにした紙粘土による塑像の制作と着色	彫像と塑像の違いについて学び、塑像の特性について考える。 動きのある動物を立体的に表現するための方法と技能を学ぶ	動きのある対象物を再現することへ美的な思考を学び、作品としての表現へつなげる	継続的に楽しく取り組みかつ主体的に努力する姿勢を身に付ける 目標を持って楽しく取り組める。様々な方向性を制作活動に反映しようとする姿勢が持てる。
			授業内観察、作品、テスト、自己評価。		

月	単元	学習内容	観点ごとの評価規準(達成してほしい姿)		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
9 10 11 12	木彫羽子板の制作	木彫羽子板の美しいデザインと木彫による表現を学ぶ機会を得る。	機能と美的なバランスを捉えたデザインの作成及び、制作するための計画を考える。 木彫を行うための道具とその使い方について学ぶ。 表現意図に応じた用具の使い方を身に付ける。 表現の方法や技法等の違いを理解、活用し、美しく制作することができる	色彩・構図・全体のバランス等を考えて構成を練る。 素材の特徴や美点を見出しその持ち味を生かした表現を考える。	継続的に楽しく取り組みかつ主体的に努力する姿勢を身に付ける 目標を持って楽しく、創造活動の喜びを感じながら制作に取り組む姿勢が持てる。
			授業内観察、作品、テスト、自己評価。		

月	単元	学習内容	観点ごとの評価規準(達成してほしい姿)		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	工芸 堆朱工芸	伝統工芸の堆朱について学ぶ機会を得る。 堆朱を用いた自分なりの表現活動を行う。	表現意図に応じた用具の使い方を身に付ける。 表現の方法や技法等の違いを理解、活用し、美しく制作することができる	堆朱による色彩・構図・全体のバランス等を考えて構成を練る。	目標を持って創造活動の喜びを感じながら制作に取り組む姿勢が持てる。
2				堆朱の特徴や美点を見出しその持ち味を生かした表現を考える。	
3	鑑賞(校内展)	他者の作品について理解を深める。	制作者の意図や時代背景を理解し、作品についての知識を深めることができる。	対象作品の制作意図を読み取り、自分なりに表現、評価をすることができる。	鑑賞対象作品から、自身が感じ取った作者の美的要素をつかみ、それを主体的に自身の言葉で表す
			授業内観察、作品、テスト、自己評価。		

月	単元	学習内容	観点ごとの評価規準(達成してほしい姿)		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 5 6 7 8	仏像スクラッチペン皿の制作	修学旅行で訪れる京都奈良の仏像の名称とその特徴について学ぶ機会を得る。 スクラッチ技法 明暗法とハッチング描画の学習と実践	修学旅行で訪れる京都奈良の仏像の名称とその特徴について学ぶ。 ハッチングを用いて多段階トーンを作り出す事が出来る。 スクラッチ技法を理解し、実践することで立体的表現ができる。	仏像の持つ立体感や力強さ、美しさを感じさせる表現ができる。 多段階トーンの作成と効果的配色を構築する事ができる スクラッチ技法を用いて光の方向性を感じさせると共に、正しい立体感を表現できる。	スクラッチを用いた画面作成に意欲をもって取り組める 自らデザインした画面構成を、美しく、正確な線描表現に取り組める
			授業内観察、作品、テスト、自己評価。		

月	単元	学習内容	観点ごとの評価規準(達成してほしい姿)		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
9 10 11 12	和のポスターの制作	京都奈良を中心とした日本の伝統文化の「和」の表現について考え構成し、ポスター作品として表現する。 コラージュについて学び実践する機会を得る。	「和」を表現するための日本の伝統文化や工芸品、模様等についての知識を得る。 「和」を表現するための着色技法や、効果的なコラージュを実践することが出来る。	「和」を表現するための伝統文化や工芸品等を調べてデザインに取り込むことが出来る。 デザインの中に効果的なコラージュを行い表現に繋げることが出来る。 計画性をもって作品制作に取り組むことが出来る。	継続的に楽しく取り組みかつ主体的に努力する姿勢を身に付ける 目標を持って創造活動の喜びを感じながら制作に取り組む姿勢が持てる。
			授業内観察、作品、テスト、自己評価。		

月	単元	学習内容	観点ごとの評価規準(達成してほしい姿)		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 2	CD DVD のパッケージデザイン	好きな音楽や映像作品のイメージをコラージュの技法を用いて表現する機会を得る。	表現意図に応じた用具や素材を使うことができる。 これまでに培った表現の方法や技法等を活用して作品を制作することができる。	作品のイメージを具体化するための構図や素材について考えて構成を練ることができる。 コラージュに用いる素材の特徴や美点を見出し、その持ち味を生かした表現を考えることができる。	目標を持って創造活動の喜びを感じながら制作に取り組む姿勢が持てる。
3	鑑賞(校内展)	他者の作品について理解を深める。	制作者の意図や時代背景を理解し、作品についての知識を深めることができる。	対象作品の制作意図を読み取り、自分なりに表現、評価をすることができる。	鑑賞対象作品から、自身が感じ取った作者の美的要素をつかみ、それを主体的に自身の言葉で表す
			授業内観察、作品、テスト、自己評価。		